

次ページの文章を読み、音楽の根源的な性質や意味を「音楽作品の中にある」と考える場合と、「音楽をするという行為の中にある」と考える場合では、音楽に対する見方にどのような違いが生じるかについて、あなた自身の考えを、具体的な例を挙げて 800 字以内で論じなさい。

なお、論点を明確にするため題を付け、解答用紙の 1 行目に書くこと（題及び改行時の空白は 800 字に含む）。試験時間は 60 分とする。

問題文

そもそも音楽とは何かという根源的な性質や意味は、物理的な音響の中にあるのでもなければ、音楽作品の中にあるのでもなく、音楽をするという行為、つまり人間が行っていることの中にある。音楽とは何か、またそれは人間の生きる営みにどのような役割を果たすのか、私たちはそれを理解したいと望むわけだが、それは、音楽という行為に参加する時に人間は何をしているのか、それを理解してはじめて可能になる。

音楽が果たす機能が何であろうと、これだけは確かに言える。第一に、音楽という行為に参加することは、私たちが人間らしくあるためにきわめて重要な意味を持っているということだ。それは言葉話すという行為に参加することも同様で、実際このふたつはとてもよく似た行為だ（ただし音楽と言語は重要な点で異なるものでもあるが）。そして第二に、私たちは誰もが——特別な才能があるというわけではない普通の人であっても——言葉話すという能力と同じように、音楽をするという天性の能力を持って生まれてくる、ということだ。

もしそうだとするなら、「クラシック」であれ「ポピュラー」であれ、現代の私たちのコンサート・ライフは偽りの上に築かれているということになるだろう。なぜなら現代の音楽界では、一握りの数の「才能のある」人が、多くの「才能の無い」人々のために音楽を作る権限を与えられているような状況だからだ。

それはつまり、私たちが自分自身のために音楽を生み出す力は、つねに何者かに奪われ続けてきたということだ。多くの人々は、本来生まれながらにして自分の中に持っているはずの音楽性を奪われてきた。その一方で、少数のスターたちと、彼らを操る取り巻きたちは音楽を——私たちが、自分にはないとずっと思いこまされてきたものを——私たちに売りつけることで金持ちになり、名声を得てきた。

——問題文は以上。

訳出は出題者による。

Used with permission of Wesleyan University Press, from *Musicking : the meanings of performing and listening*, Christopher Small, 1998; permission conveyed through Copyright Clearance Center, Inc.